



KGI・KPIの考え方について

令和7(2025)年11月25日(火)

- 本資料は、協議の「たたき台」として参考値を示すものです(計画書の原稿とは異なります)
- 令和6年までの各指標の推移および旅行市場の実績ならびに令和7年以降の見通しをベースに、「お木曳」のイベント性や次期計画に基づく施策の効果を加えて策定します
- 令和7年以降の全国旅行市場の見通し

- 足もとの国内旅行市場は弱含み

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、令和6年まで順調に回復してきた宿泊旅行者数は、令和7年に入って減少に転じている(1月～8月(速報)累計で前年同期比約▲3%)

- 今後5年の日本経済(実質GDP)の成長率は概ね0%～1%予想 (※内閣府 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/projection-e/projection2508.pdf>)

→ 足元の国内旅行市場の弱さを踏まえると、令和8年以降の宿泊者数の増加率は 年率▲0.5%～+1.0% になると推定

→ 日帰り旅行客数は全国レベルの速報統計がなく推定が困難であることから、宿泊旅行者数と概ね同水準の増加率になると仮定

- インバウンド旅行者数は好調

上記の観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、令和7年1月～8月(速報)の増加率は前年同期比(累計)約+13%と大幅に増加、月間過去最高更新が相次いでいる

世界全体でも旅行者数は約5%で増加 ※UNTourism <https://www.untourism.int/news/international-tourism-up-5-in-first-half-of-2025-despite-global-challenges>

以上に加えてアジア、日本の強さを踏まえると、2030年に訪日客6,000万人という政府目標(今後5年間で年平均約8～9%成長)は不可能ではないと考えられる

- 1人当たり観光消費額(=観光消費単価)は (年率)+2.0%で推移するシナリオを想定

近年、観光消費単価は急伸してきた (宿泊客:令和5年+7.1%、令和6年+9.7%、日帰り客:令和5年+2.7%、令和6年+2.7%)

【参考】観光庁 <https://www.mlit.go.jp/kankochō/content/001864689.pdf>

しかしながら、コロナ後の反動高はすでに一巡しており、観光消費単価は徐々に消費者物価指数(CPI)の上昇率(中期的には2%前後)に収束していくことが予想される

● 伊勢市観光の見通し

以下の理由から、**伊勢市は、適切な施策を講じることによって全国平均を上回る水準の増加率を達成することが可能**だと考えられます。

- ・「お木曳」の話題性、プロモーション効果

前回の「お木曳」(平成18、19年)では、神宮参拝者も急増した(平成18年は前年比+11%、平成19年は同+13%)。このことから、今回もプロモーションの実施によって集客が見込まれる。

- ・インバウンドの伸びしろ

現在の伊勢市内の宿泊客に占めるインバウンドの割合は約3%。日本の代表的な寺社や門前町との比較感から、インバウンドの増加余地は相当大きいと予想される。

(参考:和歌山県高野町 40%超、和歌山県田辺市 約15%)

- ・観光消費単価の水準

令和6年の観光消費単価は、日帰り客8,371円、宿泊客26,908円で、全国平均の40%前後の水準(全国:日帰り客19,533円、宿泊客69,362円)で比較的低位である。

三重県全体(日帰り客6,994円、宿泊客29,538円)との比較でも、宿泊客については三重県の約90%の水準にとどまっており、向上の余地があると考えられる。

さらに、今後、インバウンド誘客を進めることも消費単価引き上げの追い風になる。

● 次期計画の基本シナリオ

- ・旅行客数(日帰り・宿泊客): **お木曳期間中の増加率は全国水準を上回る約3%、お木曳終了後は全国水準なみの1%を設定**
- ・インバウンド: 施策効果の発現までに一定期間が必要なことから**令和8年はやや抑えた+7%、2年目の令和9年は+10%、お木曳終了後は全国水準なみの+9%を設定**
- ・観光消費単価: 計画期間中、**消費物価指数の想定上昇率を2%上回る+4%を設定**

	令和7年(※推計)	令和8・9年(お木曳)	令和10・11年(お木曳の後)
旅行客数 (日帰り客・宿泊客)	令和6年実績から+0.5%増加	年率+3%増加	年率+1%増加
インバウンド宿泊客	令和6年実績から約+3%増加	令和8年+7%増加、令和9年+10%増加	年率+9%増加
観光消費単価 (日帰り客・宿泊客)	令和6年実績から約+3%上昇	年率+4%上昇	年率+4%上昇

基本シナリオ

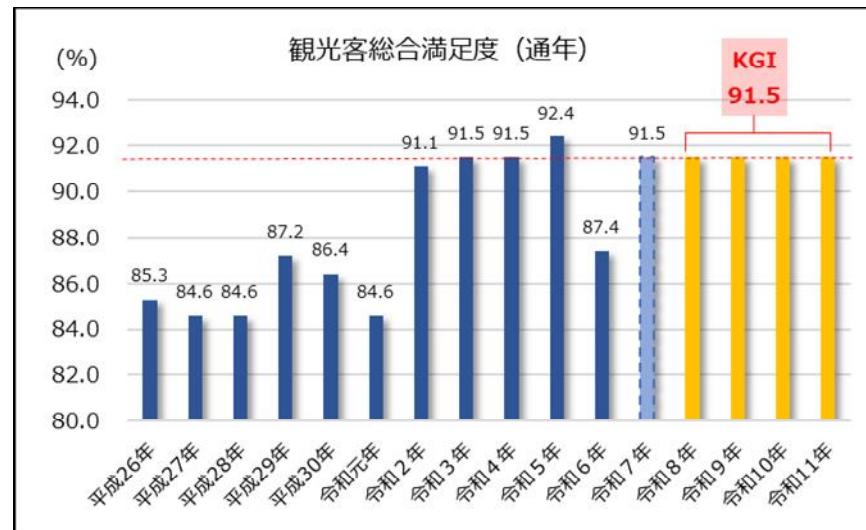


				令和4年 2022	令和5年 2023	令和6年 2024	令和7年 2025	令和8年 2026	令和9年 2027	令和10年 2028	令和11年 2029	備考
				実績値	実績値	実績値	計画・推定	目標	目標	目標	目標	
①	KGI③	市内延べ宿泊者数 (伊勢+二見)	人泊	722,394	837,900	865,979	870,000	893,000	922,000	934,000	946,000	延べ人数
②	KPI⑦	外国人推計宿泊者数	人泊	2,241	16,364	26,172	27,000	29,000	32,000	35,000	38,000	延べ人数
③	KPI①-1	神宮参拝者数	人	6,037,417	7,173,329	7,541,762	7,574,000	7,770,000	8,010,000	8,100,000	8,190,000	延べ人数
④		参拝者数のうち外国人	人	18,698	84,703	110,439	113,000	120,000	130,000	140,000	150,000	延べ人数
⑤		観光入込客数・日帰り	人	3,940,163	4,446,606	5,629,805	5,652,000	5,801,000	5,996,000	6,069,000	6,150,000	実人数
⑥		観光入込客数・宿泊客	人	①÷平均宿泊数	582,576	665,000	692,783	696,000	714,000	738,000	747,000	757,000
⑦		観光入込客数・合計	人	④+⑤	4,522,739	5,111,606	6,322,588	6,348,000	6,515,000	6,734,000	6,816,000	6,907,000
⑧	KPI②	平均消費額・日帰り	円		6,803	6,685	8,371	8,600	8,900	9,300	9,700	10,100
⑨	KPI②	平均消費額・宿泊客	円		26,558	27,462	26,908	28,000	29,100	30,300	31,500	32,800
⑩		観光消費額・日帰り	億円	⑤×⑧	268.0	297.3	471.3	490	520	560	590	620
⑪		観光消費額・宿泊客	億円	⑥×⑨	154.7	182.6	186.4	190	210	220	240	250
⑫	KGI②	観光消費額・合計	億円	⑩+⑪	422.7	479.9	657.7	680	730	780	830	870

※端数処理の関係から、増減率は基本シナリオの増減率と完全には一致していない

KGI ① 観光客総合満足度

【DATA】
伊勢市観光客実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 地域一体的な取り組みによって、高水準の観光客満足度(91.5%)を維持する(※)

令和6年(2024)はやや低下したが、地域一体的な受け入れ体制の整備を進めることによって、旅行客数が増加する中でも高水準の満足度を回復し、それを維持する。

※現行計画の目標水準を維持

KGI ② 観光消費額

【DATA】
伊勢市観光客実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

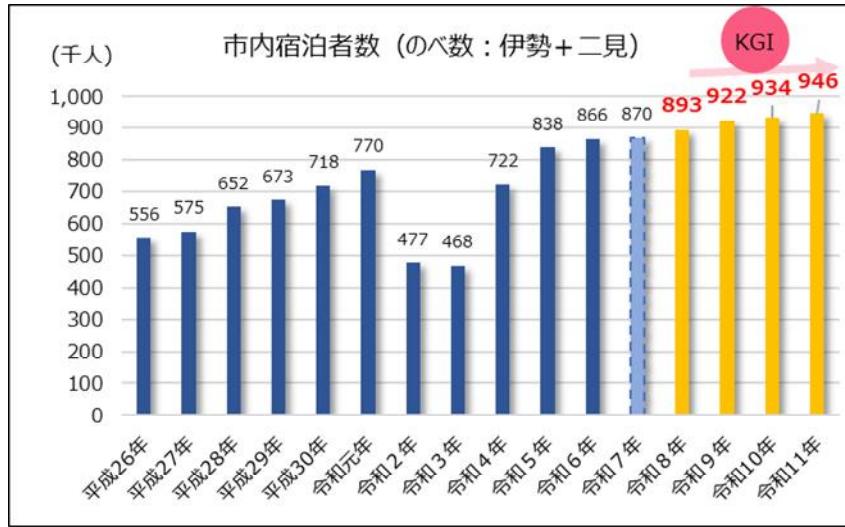
- 誘客×単価アップによって、令和11年(2029)までに、190億円の増加を目指す

国内旅行者数には大幅な伸びは期待できないものの、インバウンドの継続的な伸長と、1人当たりの消費額の引き上げ(サービスの高付加価値化→高単価化)に取り組み、令和11年(2029)に870億円を目指す。

※平成28年までは0円を除いているため、消費額が高くなっている

KGI ③
市内宿泊者数
(伊勢+二見)

【DATA】
伊勢市観光
統計



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 「お木曳」の話題性と好調なインバウンドを背景に、宿泊客を獲得。年間延べ946千人を目指す

令和8年、9年は「お木曳」の効果により年率約3%の増加を見込む。令和10年、11年は増加率がやや減速するものの、全国水準の約1%の増加を維持。

基本方針①
神宮式年遷宮を契機とする「伊勢の物語性」の継承と展開

KPI ①-1
「神宮参拝者数」

【DATA】
伊勢市
観光統計



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 令和15年(2033)の式年遷宮にむけて日本文化と伝統が継承される「常世の波の寄せる国」伊勢の世界観と価値観を広く発信

来るべき遷宮にむけて、少しでも多くの人々に興味をもって訪れてもらえるように広く発信を行う。延べ宿泊客数と同水準の増加率を設定。

KPI ①-2
「神宮式年遷宮の認知度」

【DATA】
伊勢市観光客
実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

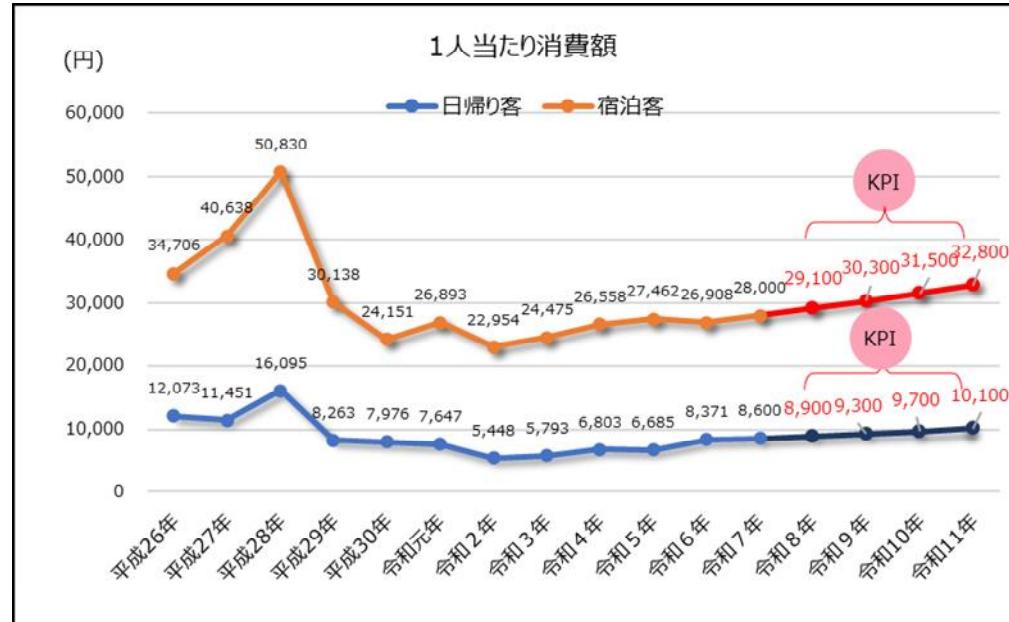
- 式年遷宮に向けて、さまざまなメッセージを発信。伊勢ブランドの向上を図る

令和6年の伊勢市観光客実態調査によって、式年遷宮に対する認知度は61.9%であることが確認された。古代からの技術の伝承、森づくりなど、ロマンと現代的なメッセージを兼ね備えた物語をとおして、認知度の向上とともに伊勢のブランディングを図る。

基本方針② データに基づくマーケティング視点による観光戦略

KPI ②
「一人当たり観光消費額(日帰り、宿泊)」

【DATA】
伊勢市観光客実態調査



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 来訪者データの収集と分析にもとづいた戦略的マーケティングの展開によって、消費単価+4%(年率)を目指す

1人当たりの消費額は、コロナ禍から十分に回復したとは言えない状況。そのことから、計画期間中、約4%(年率)を増加、4年間で日帰り客+1,500円、宿泊客+4,800円の単価上昇を目指す。

※平成28年までは0円を除いているため、消費額が高くなっている

基本方針③ ターゲット別の施策・プロモーション展開

KPI ③
「伊勢市観光協会ホームページアクセス数」

【DATA】
伊勢市
観光統計



- 観光協会ホームページからの情報発信の量・質を引き続き高めることによって、+3%～+5%の増加を目指す

令和3年3月の再リニューアル以降、セッション件数は回復基調。式年遷宮に向けて情報発信の質・量を増やすし、積極的に誘客を図ることから延べ宿泊客数の増加率を上回る+3%～+5%の件数増加を目指す。

基本方針④ 安全・安心・快適な受入環境整備

KPI ④-1

「移動・交通の満足度」

【DATA】

伊勢市観光客
実態調査



※令和7年度は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 公共交通機関の利便性向上、二次交通の整備、交通情報の発信強化等により、旅行客の満足度向上を図る

現状(令和7年調査)の満足度は80%未満の水準。きめ細かな対策の積み上げによって、観光客満足度の向上を徐々図り、計画最終年に83.0%(令和4年、5年の水準)への回復を目指す。

KPI ④-2

「伊勢神宮車椅子利用
参拝者数」

【DATA】

伊勢市
観光統計



※令和7年度は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- バリアフリー化や情報提供の充実によって多様な旅行者、参拝者に安全・安心な旅を提供する

ユニバーサルツーリズムにむけた指標として「伊勢神宮車椅子利用参拝者数」を採用。市内施設のバリアフリー化の推進や情報提供の充実などによって、年齢、障がい、人種など多様な旅行客と神宮参拝者に安全・安心な旅を提供する。

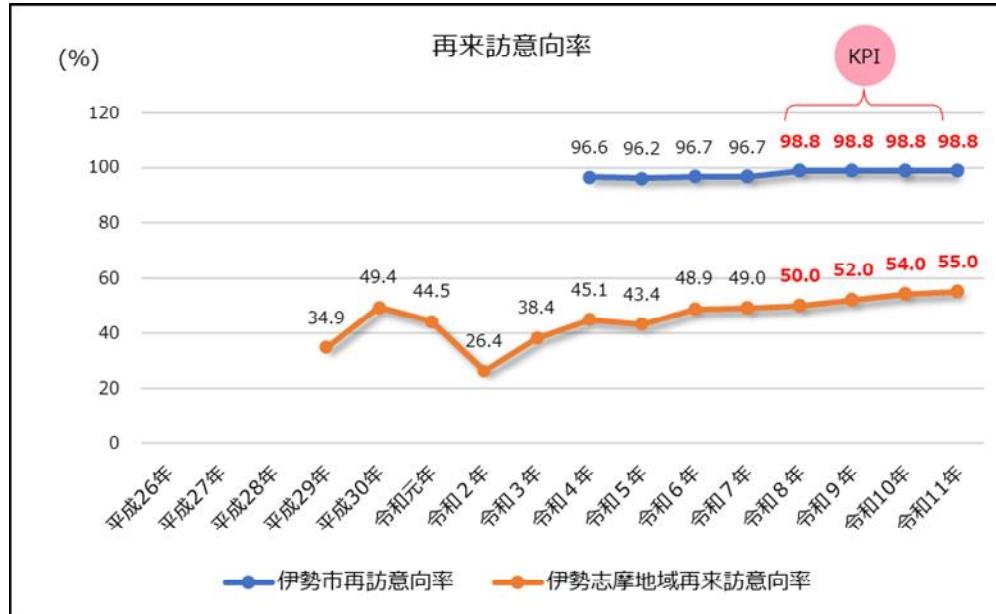
基本方針⑤
「共生と共創」による地域資源の発掘と磨き上げ

KPI ⑤

「伊勢市再訪意向率」
「伊勢志摩地域再来訪意向率」

【DATA】

伊勢市観光客実態調査
三重県観光客実態調査報告書



※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している

- 伊勢市再訪意向率は、現行計画の目標水準（98.8%）を継続。三重県による伊勢志摩地域の再来訪意向率は、着実なアップを目指す

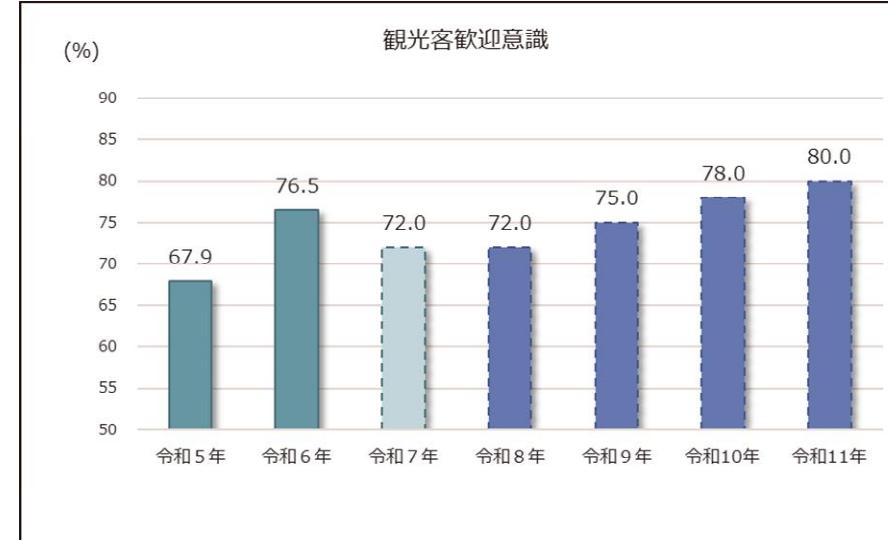
観光客実態調査の再訪意向率はすでに高水準であり上昇余地が僅かであるため、現行計画の目標値98.8%を維持。

地域連携指標として、三重県の調査による伊勢志摩地域の再来訪意向率(再来訪について「大変そう思う」の構成比)を採用。令和6年の48.9%から毎年着実なポイント・アップを目指す。

基本方針⑥ 市民・地域の「おかげさまの心」による迎え入れ

KPI ⑥
観光客に対する市民の
「歓迎意識度」

【DATA】
オンライン市民アンケート

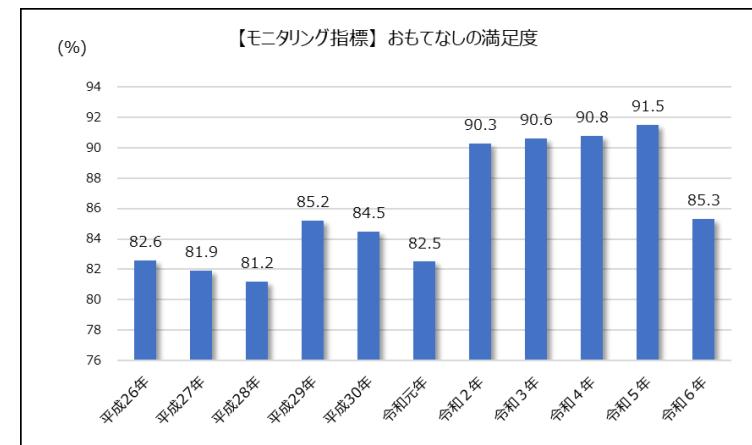


※オンライン市民アンケート「観光は産業振興や雇用拡大、文化や景観の維持・向上、公共交通の充実など、地域に恩恵をもたらしていると思いますか。」に対する「1. 思う」「2. どちらかといえばそう思う」の回答構成比の合計値。

- 観光に対する地域の理解を広げ、恩恵を感じている割合80%を目指す

観光客に対する市民の歓迎の意識指標として、オンライン市民アンケート「観光は産業振興や雇用拡大、文化や景観の維持・向上、公共交通の充実など、地域に恩恵をもたらしていると思いますか。」の着実なポイント・アップを目指す。

旅行者のおもてなし満足度(伊勢市観光客実態調査)の調査も、モニタリング指標として継続。



基本方針⑦ インバウンド誘致の拡大による経済・社会的効果の創出

KPI ⑦
外国人推計宿泊者数
(延べ宿泊者数)

【DATA】
外国人推計
宿泊者数



- 重点市場でのプロモーション展開、コンテンツ開発などによって、7%～10%水準の増加を目指す

インバウンド指標として外国人推計宿泊者数（延べ宿泊者数）を採用。インバウンド市場の堅調さに加えて、当市は比較的伸びしきが大きいと考えられることから、計画期間中7%～10%(年率)水準の継続的な増加を目指す。

※令和7年は、計画値もしくはトレンドから推計される暫定値を表示している